【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第４区分
【発行日】令和1年12月5日(2019.12.5)

【公開番号】特開2018-75765(P2018-75765A)
【公開日】平成30年5月17日(2018.5.17)
【年通号数】公開・登録公報2018-018
【出願番号】特願2016-218946(P2016-218946)
【国際特許分類】
Ｂ４１Ｍ　5/40　(2006.01)
Ｂ４１Ｍ　5/44　(2006.01)
Ｂ４１Ｍ　5/395　(2006.01)
Ｂ４１Ｍ　5/42　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｂ４１Ｍ　5/40　３１０
Ｂ４１Ｍ　5/44　３２０
Ｂ４１Ｍ　5/395　３００
Ｂ４１Ｍ　5/42　３１０

【手続補正書】
【提出日】令和1年10月18日(2019.10.18)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１２】
【図１】図(a)は、本発明の感熱転写媒体の、実施の形態の一例の層構成を示す拡大断面図、図(b)は、実施の形態の他の例の層構成を示す拡大断面図である。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００９７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００９７】
比較例３は、比較例２と同じ特許文献２の接着層と、環化ゴムを含ませた特許文献４の着色層の構成で、なおかつ耐アルコール性や耐擦過性を向上するべくワックスの配合割合を少なくした着色層とを組み合わせたものに該当する。
上記各実施例、比較例で作製した感熱転写媒体１を、熱転写方式のバーコードプリンタ〔ゼブラテクノロジーズ社製の１０５ＳＬ　Ｐｌｕｓ〕に用いて、印刷対象としてのＰＰの表面、およびＰＥＴの表面に、それぞれ印字速度：６インチ／秒、印字濃度：２５の条件でバーコードを熱転写印刷したのち、下記の転写性、耐アルコール性、および耐擦過性を評価した。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１０７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１０７】
また、接着層７に環化ゴムも塩素化ポリオレフィンも含ませず、ポリエステル樹脂のみ

を含ませた比較例２は、ＰＥＴの表面に対する転写性や文字等の耐アルコール性、耐擦過性は良好（○）であるものの、ＰＰの表面に対しては、カスレを生じて転写性が不良（×）となる上、文字等の耐アルコール性や耐擦過性も不良（×）となることが判った。

さらに、比較例２の接着層と、環化ゴムを含ませた着色層とを組み合わせた比較例３では、比較例２と同様に、ＰＰの表面に対してカスレを生じて転写性が不良（×）となり、また文字等の耐アルコール性や耐擦過性が不良（×）となるだけでなく、着色層が膜キレしにくくなり、余剥離を生じて、ＰＥＴの表面に対する転写性も不良（×）となることが判った。